

専門性と多様性が融合する 国際第1委員会の魅力

国際第1委員会 委員長
大野 貴広 氏
(所属：富士フイルム株式会社)



interview

自己紹介

研究開発職として入社し、その後知財を本業にするようになってから約10年。JIPA委員会活動は、国際第1委員会に2023年度から参加し、2025年度より委員長として活動中。

趣味は音楽（ドラム演奏）、ドライブ旅、ゲーム。時間がかかる趣味ばかりで週末の予定が大渋滞…

Q 研究テーマとそれらを選んだ背景・理由は？

国際第1委員会では、研究テーマは前年度に委員から広く募集し、正副委員長で議論して研究テーマとして設定しています。委員自身の興味関心のあるテーマを他の委員の協力を得て調査研究できることは非常に有意義であると思います。提案したテーマが、研究テーマに選ばれるためには、多くの方の関心事でもあることも重要ですので、そのあたりにアンテナを張ることも必要だと思っています。

国際第1委員会が担う領域は、アメリカ大陸全土になります。なかでも米国は、多くのJIPA参加企業にとって非常に重要な市場であるため、画期的な判例や法改正があれば、企業知財活動への影響も大きなものとなります。そのため、JIPA参加企業の視点を大事にし、どのような情報発信が企業の役に立つかを考えて日々の活動を推進しています。

2025年度研究テーマ

- WG1：侵害立証・ディスカバリに関する調査研究
- WG2：米国における実施可能要件に関する調査研究
- WG3：米国におけるAI関連出願に関する調査研究

Q 委員会の特長／魅力は？

国際第1委員会の一番の特長は、「優秀さ、真面目さ、多様性」です。さらに、委員会活動を通じて得られる個人の実力向上だけでなく、日米の知財専門家との人脈形成ができることも大きな魅力だと思います。委員会では、JIPA参加企業の視点を重視し、実務に役立つ情報発信を目指していますので、米国知財実務に携わる方には特に有益な活動の場であると自負しています。

主要な委員会活動は、研究テーマに沿った米国判例の読み込みと、そこから導き出される企業知財活動への提言です。活動の過程では、かなりの数の判例を読み込むことになりますが、皆さんしっかりと読み込んで理解した上で、議論に臨まれています。その議論では、多様な意見に触れることで様々な気づきが得られると同時に、意見をまとめる力も大きく向上するはずです。

また、米国やブラジル等中南米の専門家との意見交換会も開催されます。また、USPTOとの意見交換会（IP-PAC）への参加も行っています。委員会から複数名が毎年秋に渡米し、意見発信を行うことも恒例イベントとなるように進めています。

これらの活動は、JIPAだからこそ得られるものです。責任も大きいですが、その分やりがいのある活動ですので、是非委員会活動への参加をご検討ください。

Q 委員会としてのこだわりは？

心がけているのは、「楽しく参加する」ことができる雰囲気作りです。

「楽しく参加する」ことは、国際第1委員会の活動方針です。活動を楽しめるようになることで、委員の皆さんの積極的な発言が促され、委員同士の相互作用で組織の力が高まっていくことを期待しています。

また、「楽しく参加する」ためには適切に役割を担って頂くことも大事だと考えています。特定の個人に負荷が集中して活動が作業になると楽しむ余裕が生まれませんし、逆になにも役割がないと参加のモチベーションを保つのも一苦労です。そのため、委員の皆様には、様々な委員会活動の役割を可能な範囲で担って頂き、その役割でリーダーシップを担う経験を重ね、所属会社での知財活動において存在感を発揮して頂けるように、サポートしたいと考えています。

委員会活動を通じて得た知識や人脈は、所属会社の知財実務にも大いに役立っており、JIPA活動の「醍醐味」を日々実感しています。今後も企業にとって役立つ情報を発信し続けられる委員会を目指し、活動を続けていきたいと思っています。

以上